新選
增補

大匠雛形大全

數寄屋之部

諸匀配口傳 四

1894
5-4

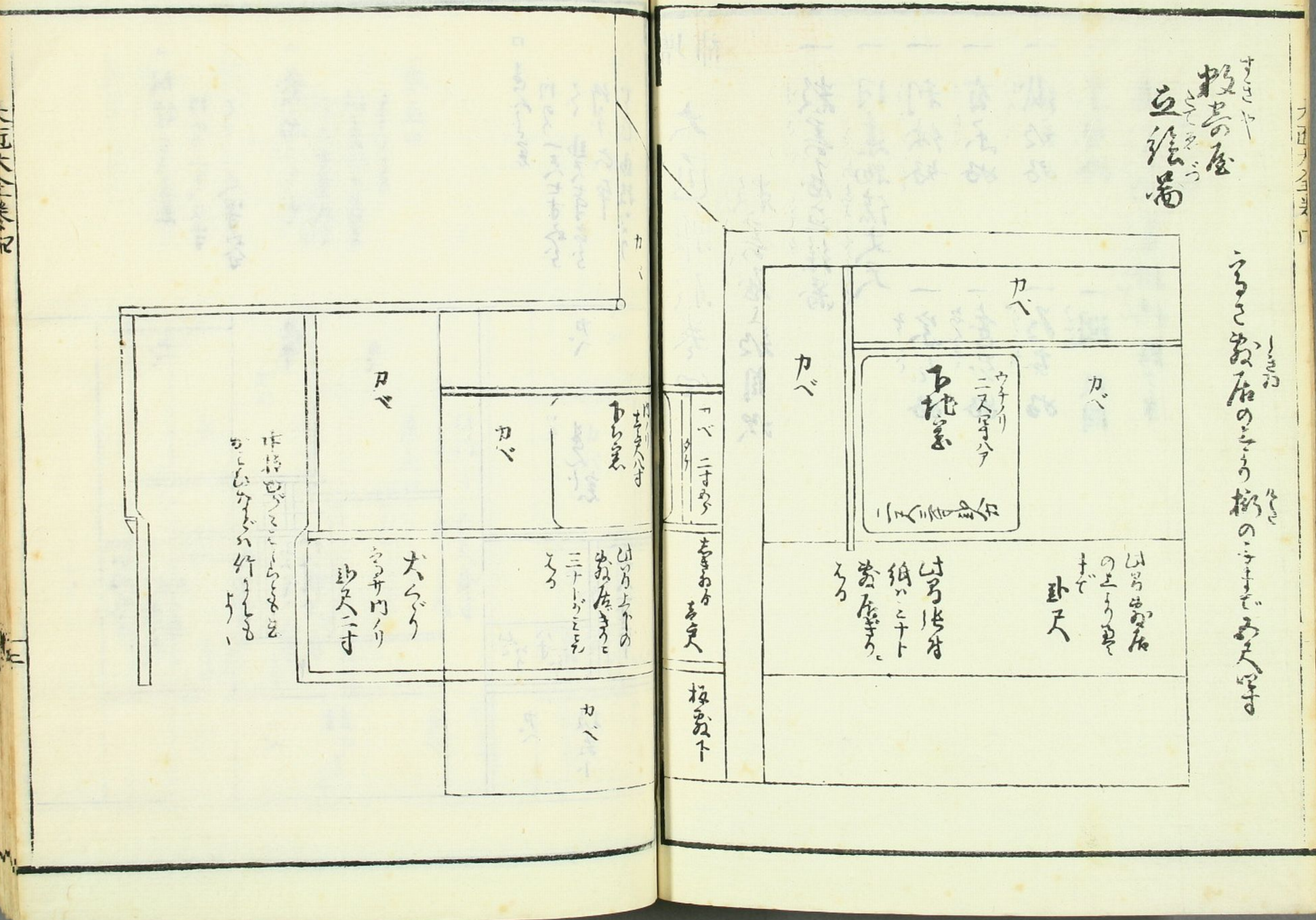
ム多7
1894
4

増補

大匠雛形巻四

数寄屋之部目次

一 数寄屋立絵図
一 同建物法丈尺
一 利休好
一 有不好
一 織部好
一 宗貞好
一 宗左好
一 金森好
一 石斎好
一 岡 数図
一 諸家配置秘伝 数ケ条
并図

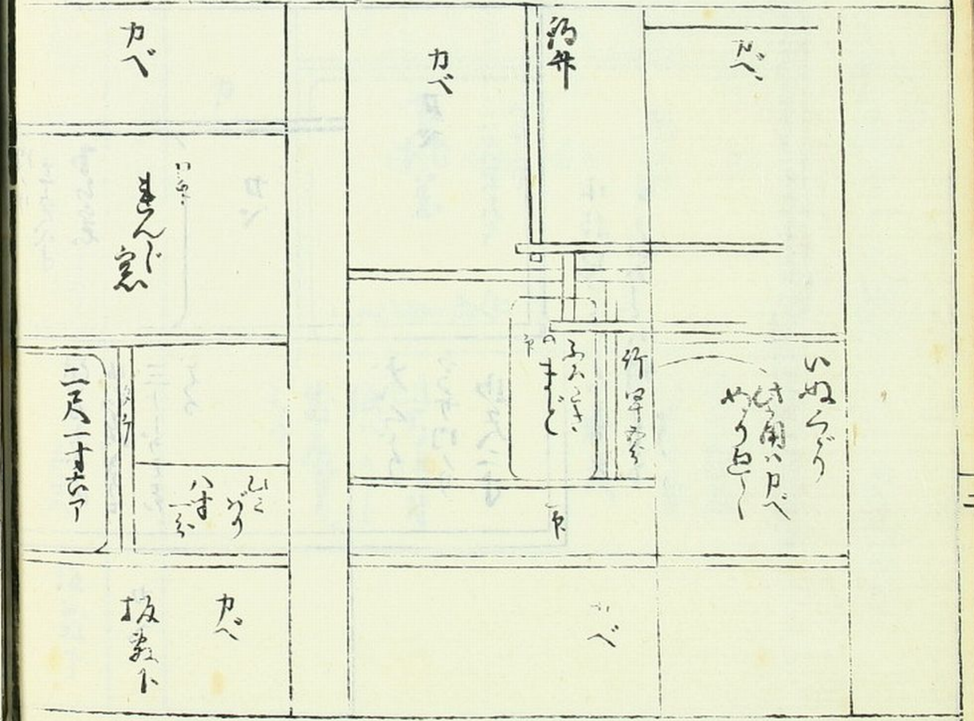


カベ
カベ
カベ
カベ
カベ
カベ
カベ

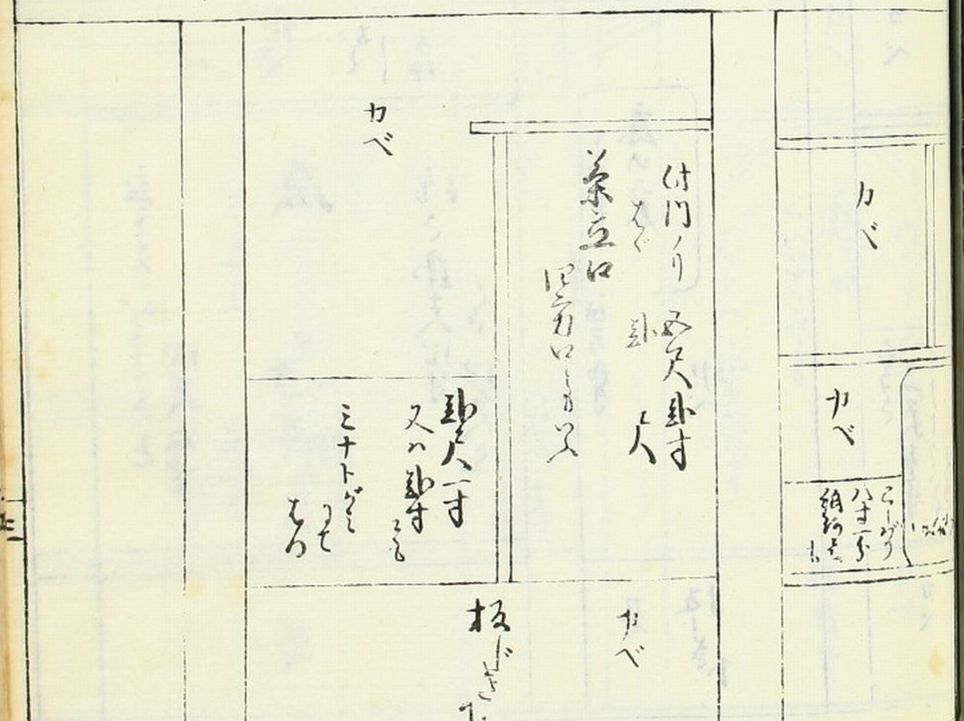
○風竹さきこ窓
門のり一尺九寸
たぐ 一尺四寸五分

△数居しよまで
七寸五分
此方ハ三ナトかり
ちらぐくり

□まんじ窓
門のり一尺七寸五分
たぐ 卦尺七寸六分
竹ヶ 六本
ヤとじ 卦数なり



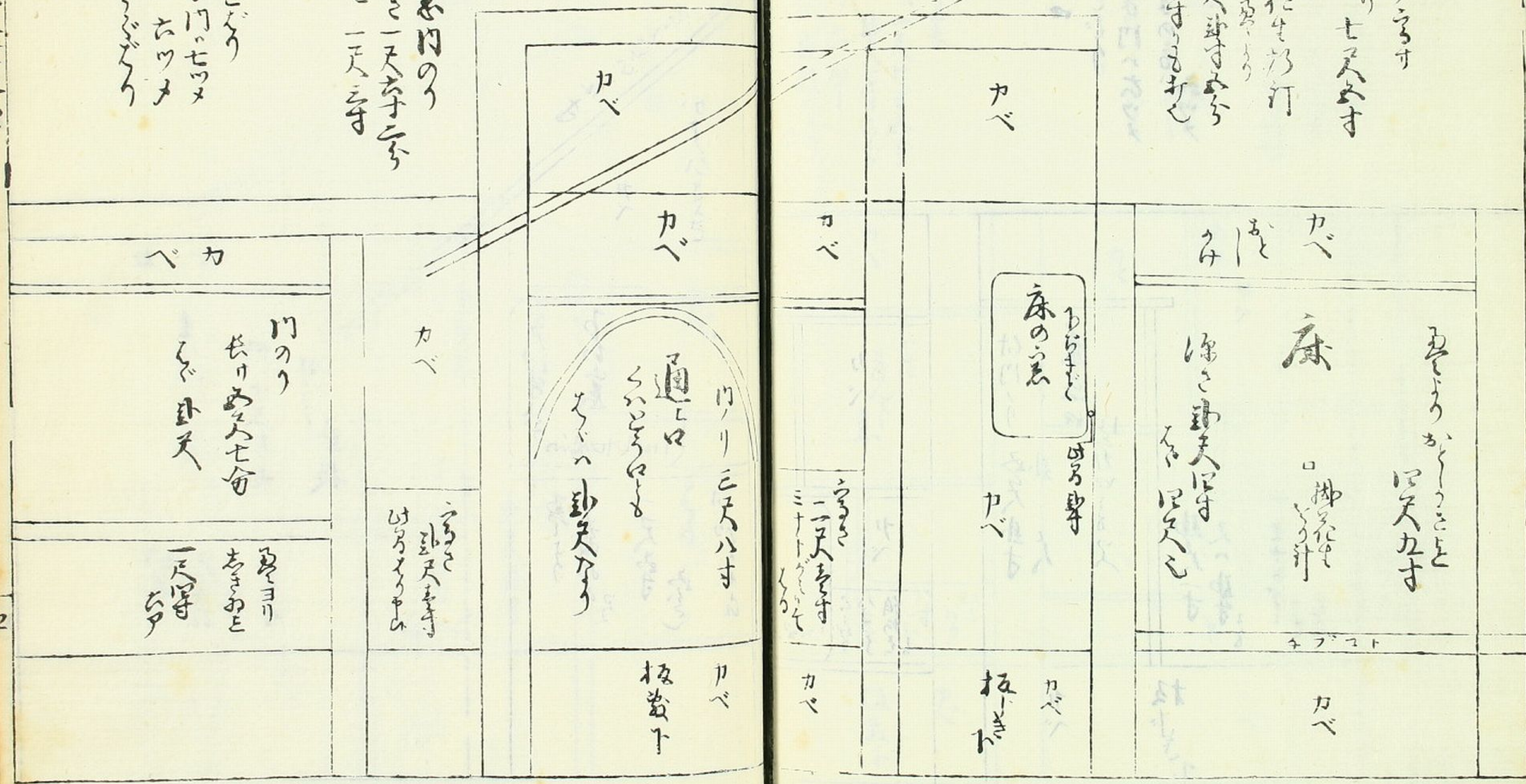
菓立口
こいてぐり
引手門ハ六ツメ
掛手の方ハ五ツメ

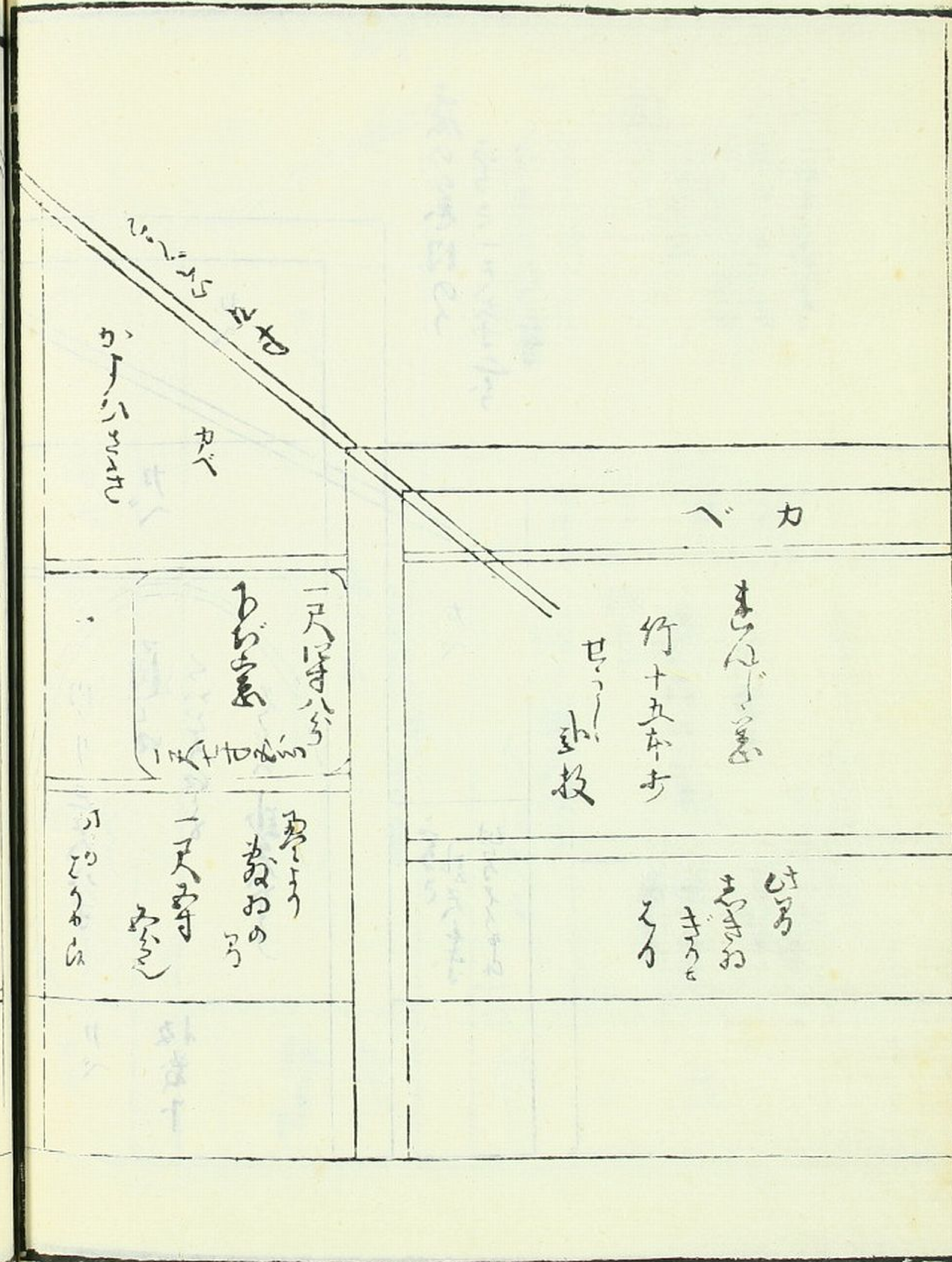


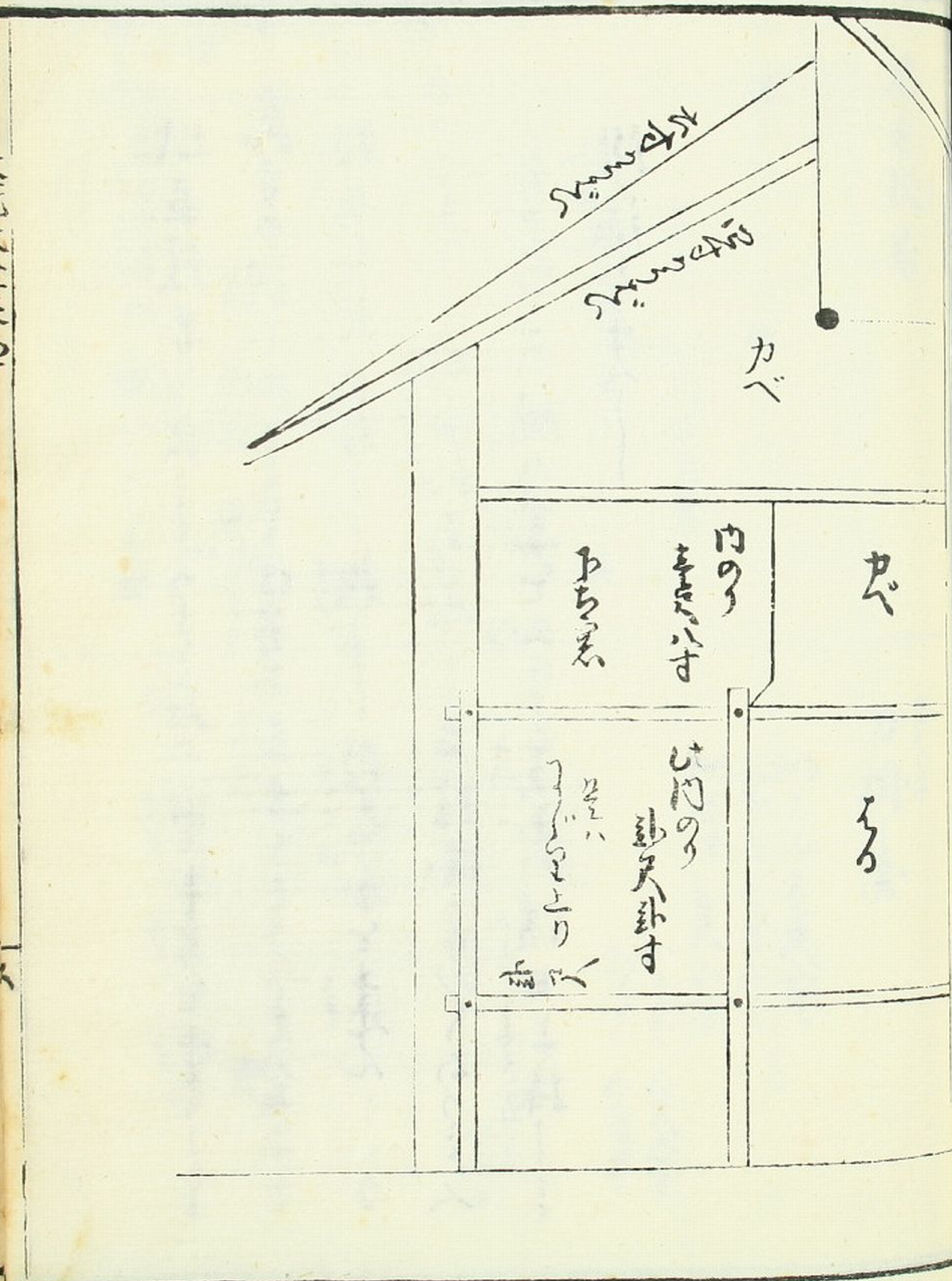
天井ノ高さ
敷居より 七尺五寸
うはなげし花生釘打
高さ敷居より
三尺一寸五分
又二寸高くも

床の違棚の
高さ一尺六寸五分
よこ 一尺二寸

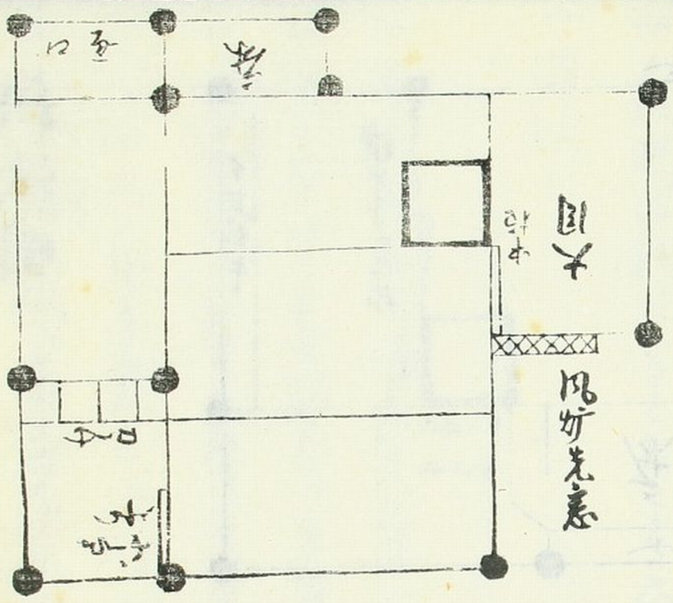
通口
ふところぶち
引手門の七ツメ
外は六ツメ
わりぶち



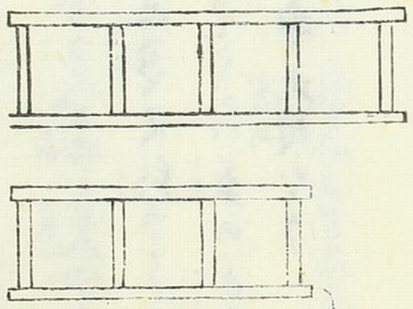

カベ
カベ
竹十五本


カベ

此立絵器をこゝへしとうこゝ右の面をまちを合ぐし
みすの割に引こゝ四方に立器をとりこゝ合せて
数寄を考ふ居し想じこゝ数寄屋を建ん…
いづまでも此心ばあるべし立絵器をすゝくありこゝ人
どもゆづこの間乃器を出すまゝ後日上掃しこゝ
附録なすべし



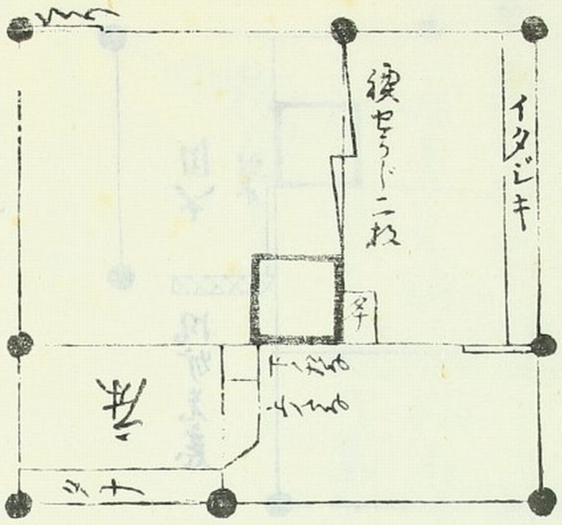
右之指器



刀掛之器

柄たゞ 壱尺ゐ分
上下弓 七寸ゐ分
柄長サ 二尺ゐ寸
かまで 三尺ゐ寸
あつさ ゐ分半

利休圍



此間三尺ニ好ミ是作より時
平三疊又新のごとく炉を
きるときは葉の手あしを
青竹大目なり

一 柱の高さ 弐寸四分角
一 床高さ 壱尺六寸
一 熱廻りの新れ高さ 壱尺より六尺三寸ゆゑ 柳の上端まで

ふしぎりより

一 くぐり鴨居門法 弐尺六寸 一 横門法 弐尺三寸六分
一 方立の巾 壱寸四分弐ニ 七分弐厘
一 鴨居の巾 弐寸 弐厘ニ 七分弐厘

くぐり戸

一 釘ハ板一枚ニ七ツ打ヘ
一 板の巾 四寸六分
一 かまち九分まて六分寸

潜上大竹指子

一 鴨居内法 壱尺九寸五分 一竹壱さ六分半 組竹数九本

一 横内法 四尺三寸三分 一竹壱さ 組数竪三本横四本 組

一 小さべの方ノ方立巾 卦寸 卦重ニ七分 卦重

一 鴨居の巾 壱寸八分 卦重ニ七分 卦重

一 中数居の巾 卦寸 卦分六重 厚さ壱寸四分四重

連子の所にて七分卦重 かく

一 方立 法のうち 七分卦重 一小蟹 卦寸七分八重

通光

一 下地窓数居の上端まで壱尺八寸 卦寸五分

一 鴨居内法 壱尺九寸五分 一数居鴨居の厚九分半巾壱寸壱分

一 窓のうちさ 内のり壱尺六寸九分 一横内のり壱尺九寸壱分

一 上ノ塗出し 壱寸 卦ト 下ぬり出し 壱寸四分

一 卦数 障子つまの方 拉づらより四分のぬり出し そまより忽づり中ずことに壱寸 そまより九寸五分 竪卦本なり 下のぬり出より忽づりも四ずことに壱寸二分 そまより七寸九分 横卦本

一 竹障子の横巾 壱尺九寸八分 かまちのきさ四分ニ四分八重中の組子卦分八重 同付 竪卦本 横四本 組 波付 かまちの上なりと

一 同 訓 軒の下地窓天井迫り 縁の下端より二寸四分下ル

一 ちさ 内のり七寸 一横内のり九寸六分

一 上の塗出し三寸四分 そまより忽づり中ずことまで二寸

一 弓板のつらより壱寸八分塗出し そまより忽づり中壱とし四寸三分

一かけ傳子あるより竪九寸八分横壱尺壱寸四分かまあ二分と四分
七厘中子 鉄分三厘二四分半。竪壱寸横鉄本
一天井高さ板まで四尺九寸四分

通口

一鴨居内のり四尺四寸　一横内のり鉄尺三寸
一方立巾壱寸四分四分厚壱寸　一鴨居巾鉄寸鉄分厚さ壱寸
一鴨居はのから方立のあつらより壱寸出
一同取つりぐみ高さ壱尺壱寸四分下端まぐり
一板のせさ壱尺壱寸九寸二分厚さ四分半
一鉄弁壱さ四分半。首ハ七ツ上ハ七寸下ハ六寸壱分半出
一竹の目ハ小ぶり上の柱ところ　一天井のうるさ板こみ高さ八寸八分

一廻りぶちふとさ板巾壱寸鉄分
一掉縁とて二厘り但鉄本にてなるべ板にし四分半の竹
一板巾八寸七分

鉄枚陸子

一鴨居内のり四尺八寸四分　一横内のり四尺六寸
一同巾鉄寸鉄分半厚さ七分鉄厘
一方立巾鉄寸壱分半厚さ七分鉄厘
一引手内ハ四ツ目弁ハ六ツ目

床

一加ちのうるさ鉄寸四分厚壱寸壱分一落げ厚壱寸八厘巾鉄寸鉄分半
一同内のり四尺六寸鉄分　一横内のり二尺八寸鉄分

一深さ桂門のり鉄尺寸四分　一鼻の長さ三尺八寸鉄ゟ中鉄尺二寸鉄ゟ
一床の内高さかまちの上端より双尺壹寸門ゆり上りおらしりけの上端
より天井まで四寸
一竹釘ふとさ壹分半九ゝ打やう天井より鉄寸七分五厘　釘ゟ六分出
一花生釘はおらしりけの下端より八寸壹分
一向ハ壹寸九分又ハ六寸まもおかなり
床ゟ高さ下地窓
一地数居の上端より高さ竹の二番りの上端まで鉄尺五寸四分
と寸り竹の高さ八分　笠ハ鉄ゟ高さ　絶し清つき
一窓の高さ門のり壹尺壹寸八分　一横門のり壹尺壹寸八分
床桂より塗ち出し寸それより忍づり中ぎとを七寸八分

一下のとまりより忍づり中ぎとまで七寸五分
一かけ陽子たゞ壹尺四寸高サ壹尺五寸七分
一中の子竹竪壹本横二本一枢のふとき絶子のたさとはし
一床ばしらのつゝより竹中ぎとを壹尺八寸九分
一つり竹ふとさ六分ふし五分
一口所下地窓地数居の上端より中数居の上端まで鉄尺二寸五分
一鴨居門のり壹尺八七寸　一中数居のたゞ壹寸三分厚さ二分半
一鴨居たゞ厚さ口所
一ふじつも上り桂つゝより六寸五分の塗ち出しそまより窓たゞ壹尺五寸
八分上下に塗ち出しなし
一六寸五分の塗ち出しより忍づり中ぎとまで五寸五分

一 中敷居上端より忍づり中ずこまで壹尺壹寸二分。竪壹寸横壹
本ゝ内法寸なり
一 障子たぐ壹尺八寸八分。かゝらのふとさは四分に又分木中の組子
竹四分半に壹分六厘。竪弐本横二本
一 いろ子の上天井のうゝ板まで又尺八寸
一 廻り縁竹ふとさし直し壹寸弐分
一 さゝ縁のたき指はし四分すの竹弐本ならび中に空重り但天井
のとゝり板壹ゝ壹やき はつり壹寸八分
一 天井出ゐぎ板敷弐十六枚巾弐寸又分
一 床前天井たぐとゝりの竹つゝまで壹尺七寸四分
一 天井出ゐぎ板敷拾六枚巾弐寸又ハウ

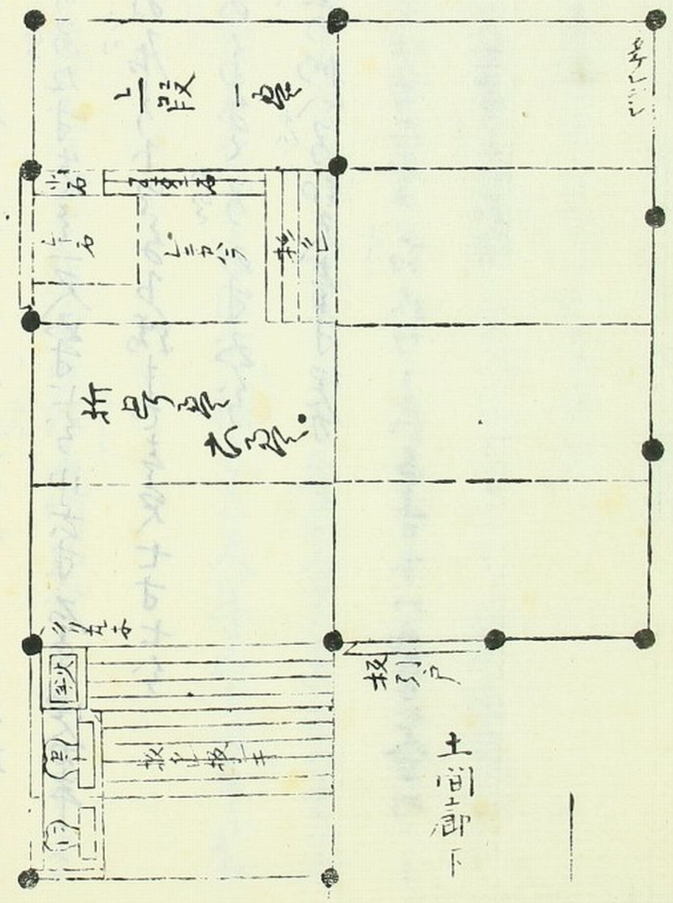
一 さゝらぶち竹たき四分半弐本ならび中に弐重り
一 天井とまり松ひんむきとゝづり壹寸七分ゝづり立
一 熱軒のうゝ墨より椽の上端まで六尺二寸又分
一 同下の垂木かけ上端まで又尺九寸又分
一 大井のとゝり下端より垂木かけの下端まで壹尺二寸又分
一 垂木かけのうゝ壹寸七分 一たゝ木かけ磨ちより出ゐ七分
一 こゝ木さし後一寸一分六ゝの弁 一こゝ木かけ四本中に弐本
一 かさこまひたき四分半弐本づゝ。中又重り。めんと木弁壹寸
一 風ゐ拾ゝ出ゐぎ板敷十九枚板たぐ弐寸二分四
一 かさこまひ四分半まとゐがきかさ竹二重
勝手通口下地窓

天井出り縁の下端より計す又分ぬり如し
毎ひの桁のつくり　壱尺又分ぬりとめ也
窓横ぢ壱尺三寸　高さ七寸計分
上の塗出しより忍づり中ずゝを八分。そまより計寸四分。又ハ
計す又分横ニ毎り
一　毎ひの桁塗どめより忍づり中ずゝまで二寸七分そまとる七寸九分
かけ障子木長サ壱尺壱寸四分。横ぢ一尺四寸又分以上計
横計本
かまちの高さ　二分ニ四分七厘中の組子行計分三厘ニ一分ニ
一　天井の高さ桁上又尺八寸八分　一点り弱さ　一寸計分木かえ
一　さか縁四分半行計本なるひ中計毎り

一　襖障子引手高さ計尺四寸六分下端まで
桁ゝ二寸一分　一棚下巾六寸長サ八寸厚四分半組巾、棚板下ハ
上の棚下きの高九寸先ニ一尺四寸七分巾六寸厚サ四分半
一　棚高さ地敷居より下の高下端まで壱尺七寸七分
一　中の高下の高なと弓　四寸又分
一　中の棚より上の棚へ弓計尺壱寸四分
鉤行の高さ四分六厘　首又ハ上ハ壱寸下ハ計寸七分めへ
かけ高下四分半上ハ又分

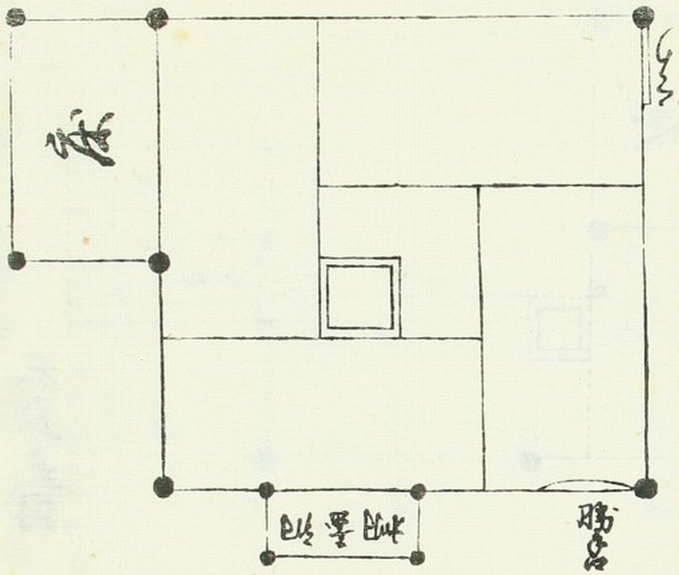
已上

利休好

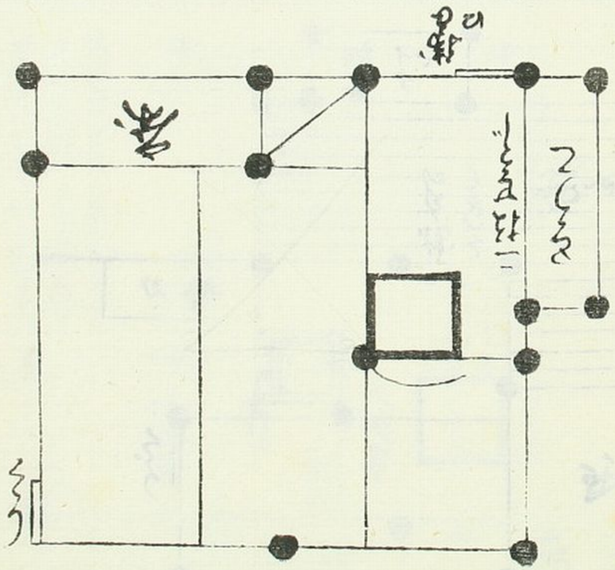


今日庵図

千家左源店

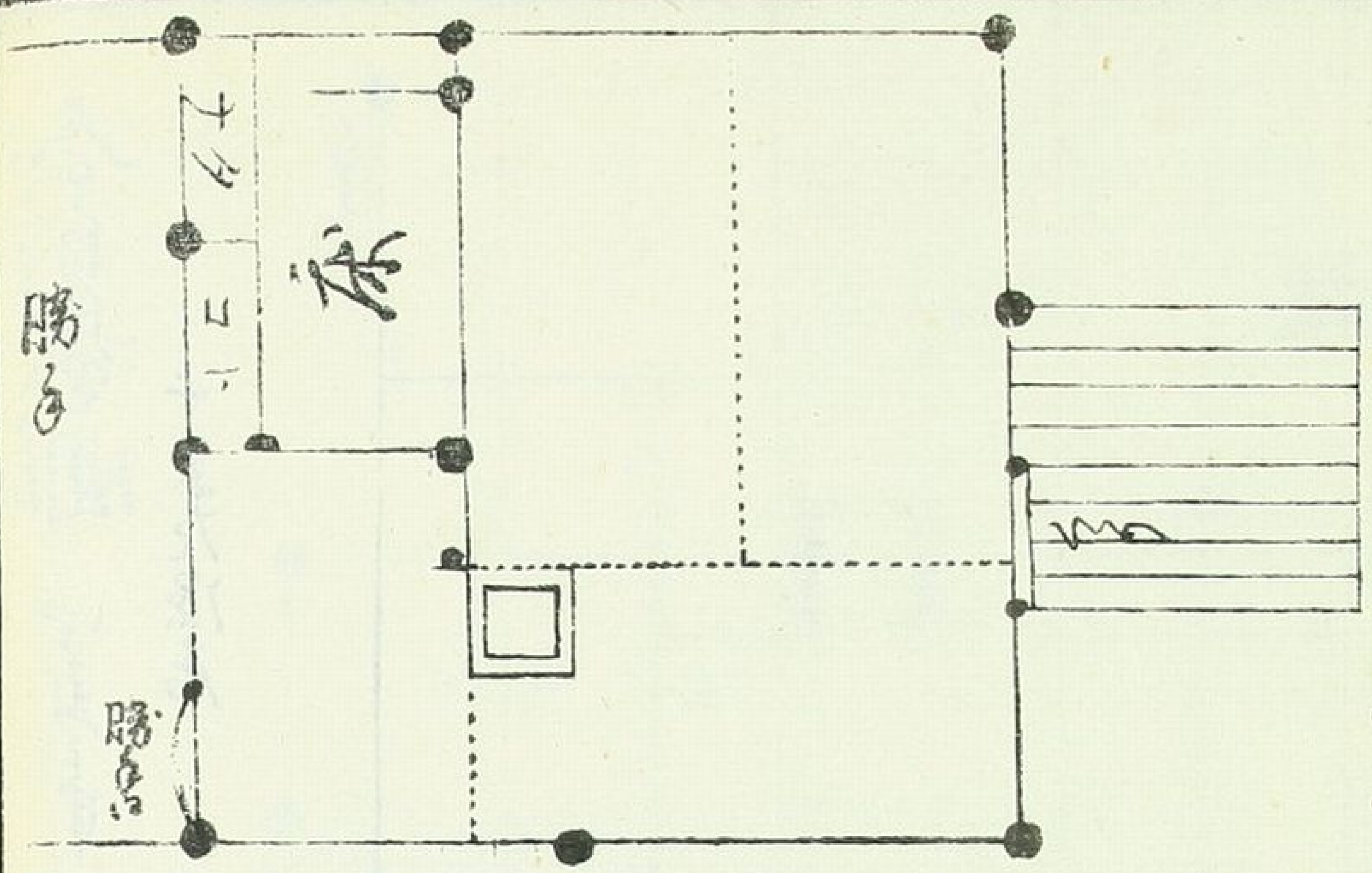


有呆図

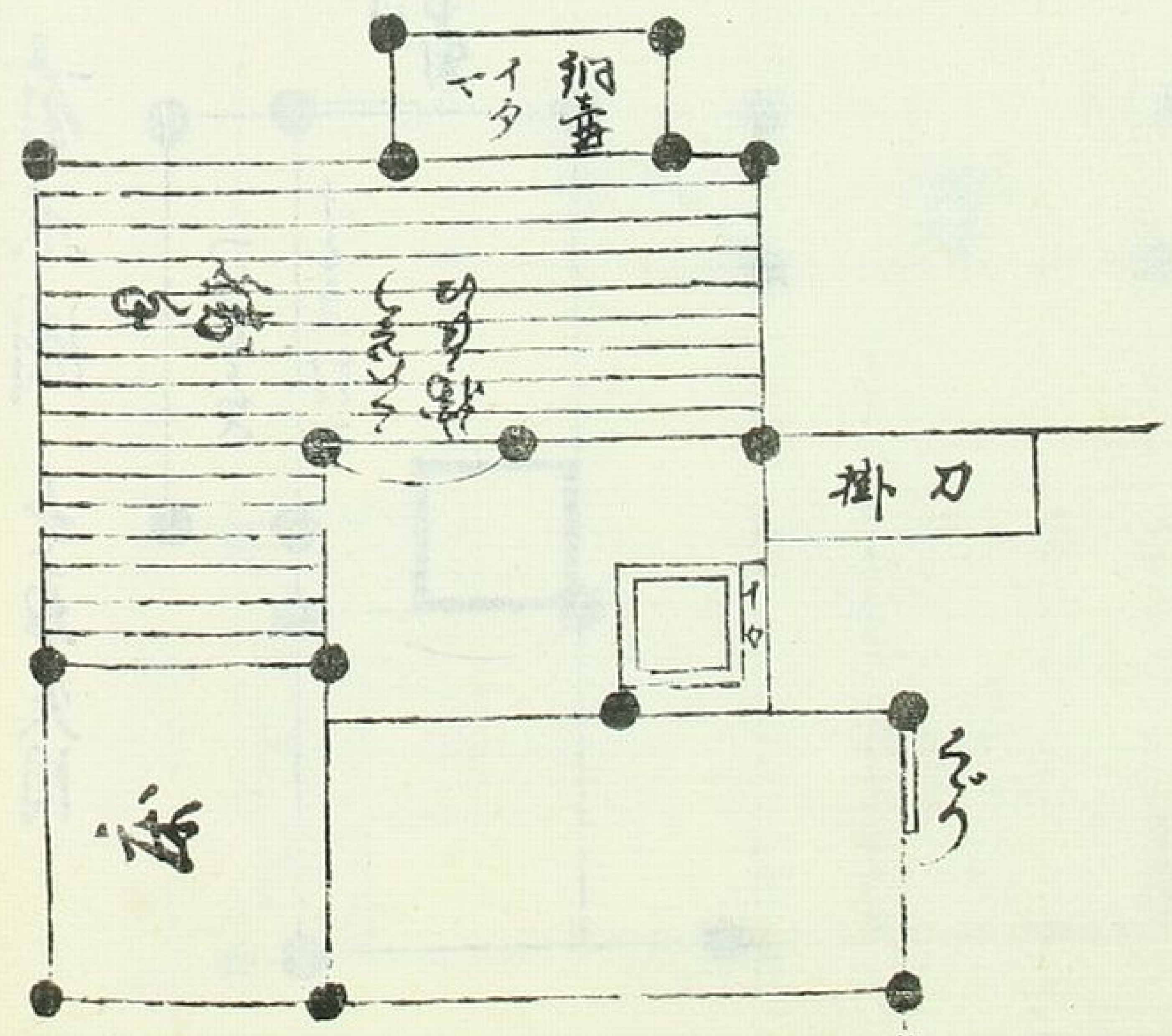


有呆庵数さきのすこへ板をも床柱をどうして墨のもぶまとまずらうひの磨なりいろりさきの柱とうべしの為板を入れくれたり口をいこと切なり

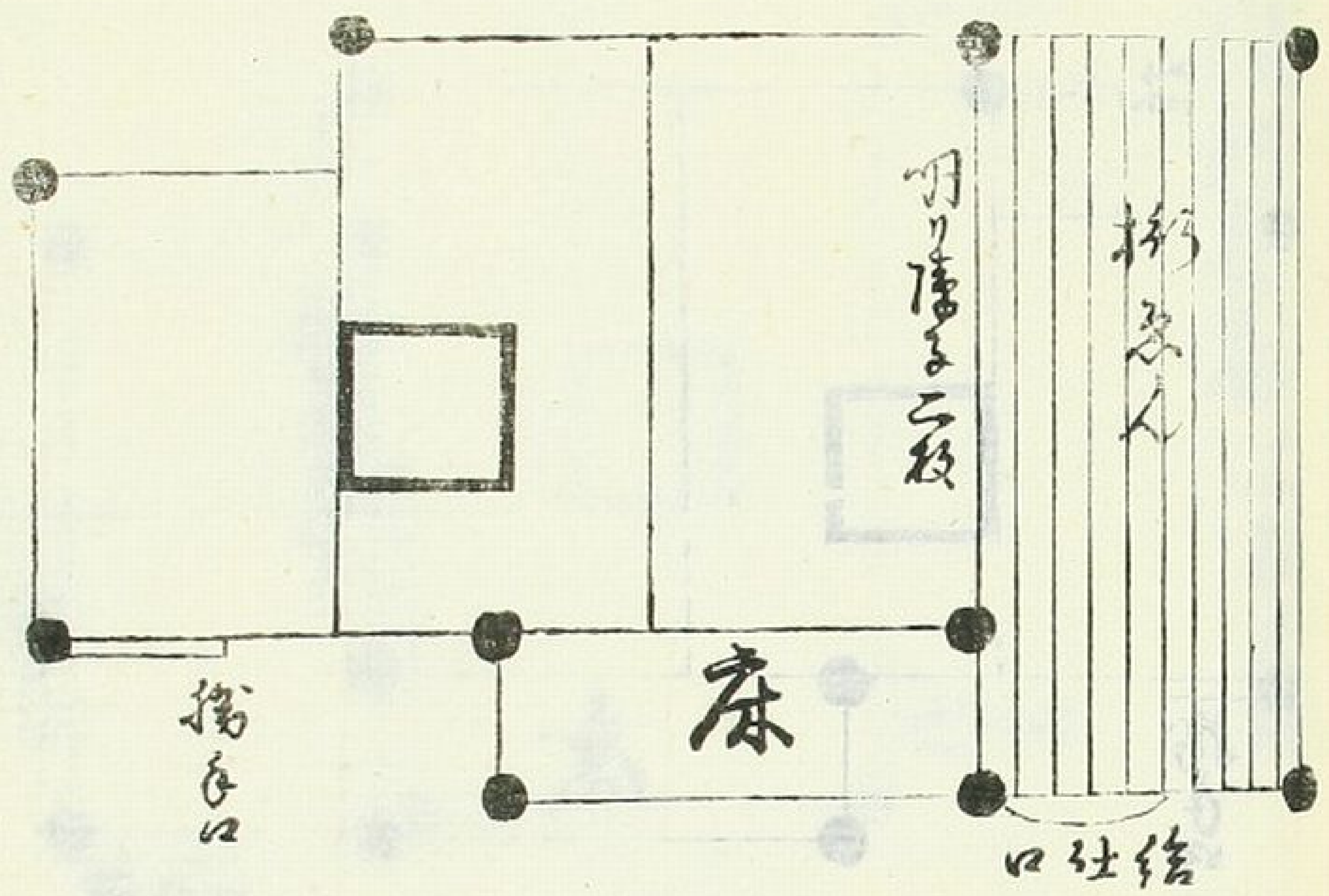
遠州好 南禅寺 三畳大目



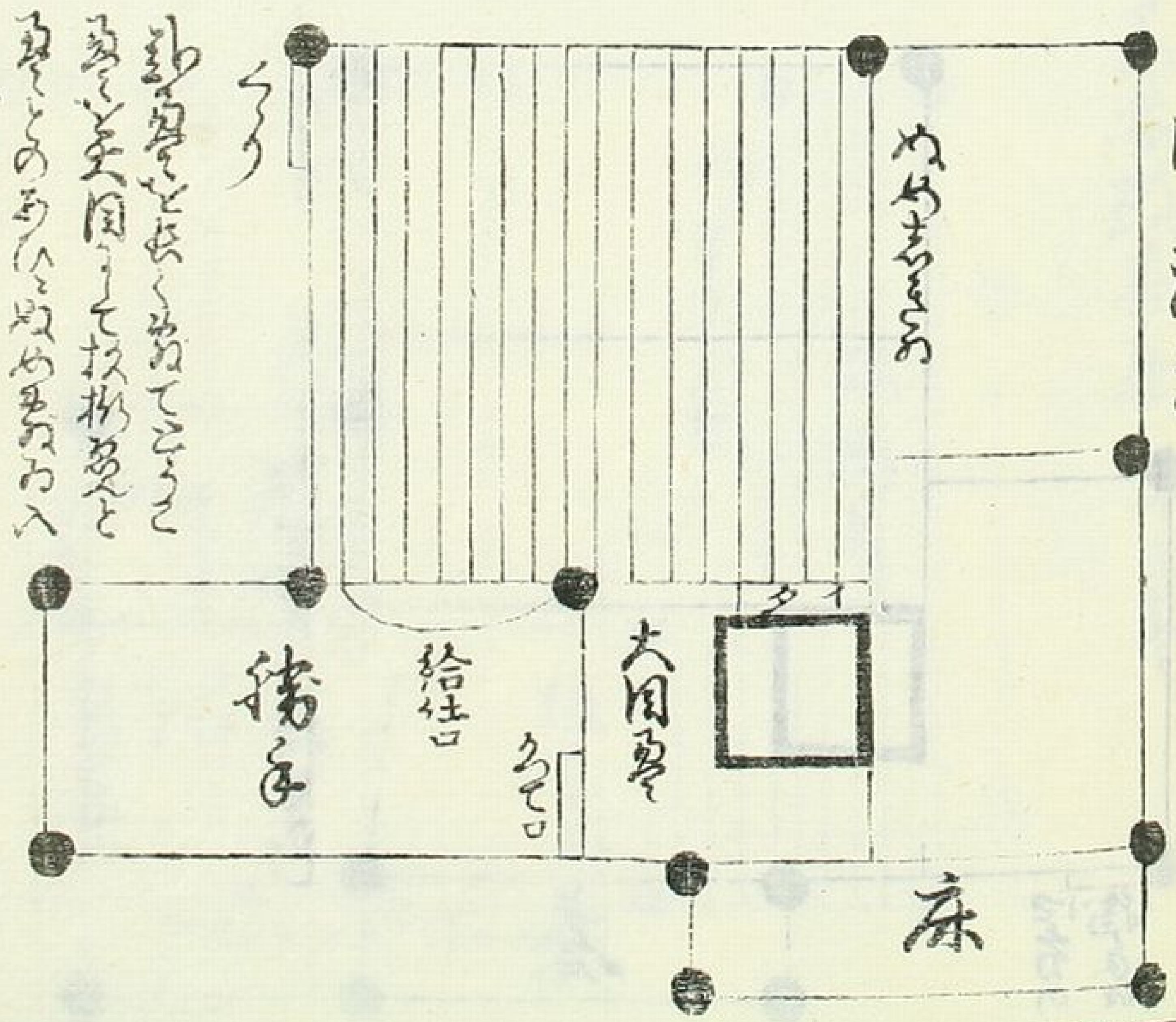
千宗佐囲 一畳半



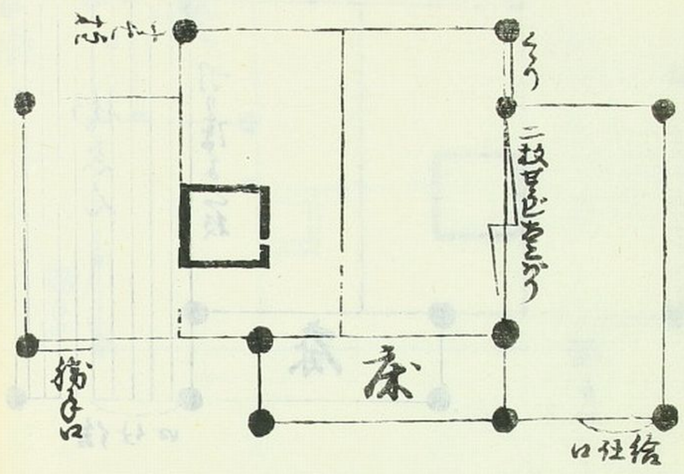
有楽囲



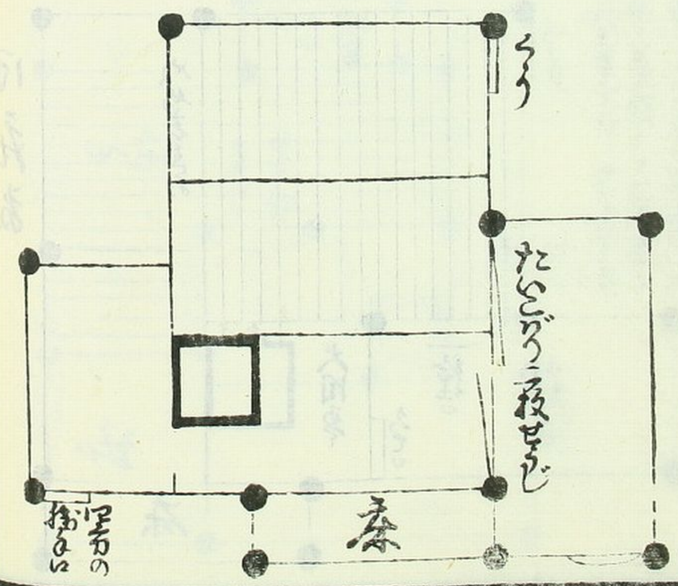
本家の二畳半の囲のあかり障子を二枚立にまはりおそて上りの所と床の後とを長く押板にして柳床にしてそれをつりたなにし別なるものをこしらへかも有楽京二条御本のかきつけ座人の見出のときも障子を二枚立てよ別二階のさししかたなるものは当代流のつきもうとしきあつけなり



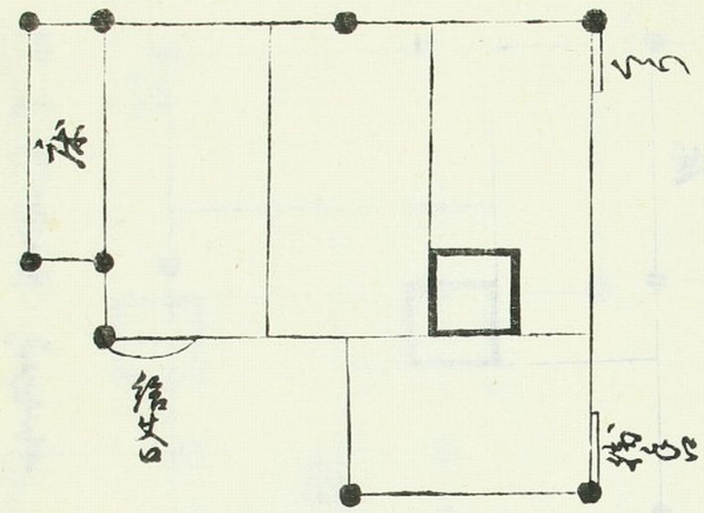
勝手を長くみねてこうさ高さ美囲りて板柳床とあとのあいを間め高め入ころぎしきなりいろり先の高ま出入しておき勝手へ給仕口と上よさ風を入て茶人勝手のあいとよさところの作とよさ二畳入ってかこにすれころとこれいさ楽天備りやしきのさしきなり



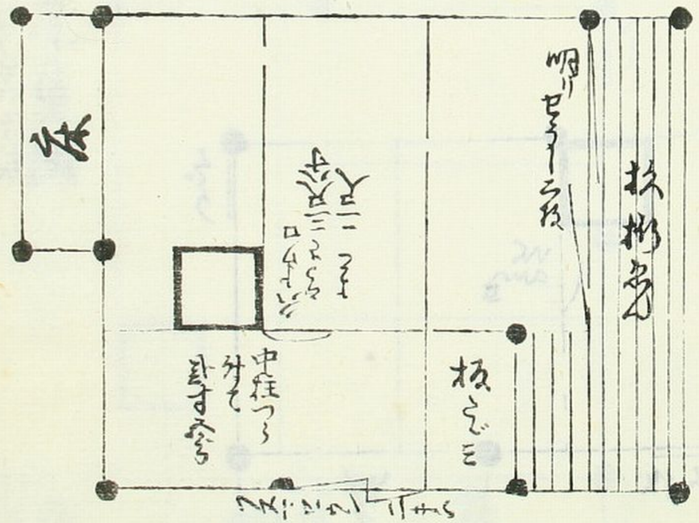
鐵釘数寄の屋　二畳大目



同　三畳大目

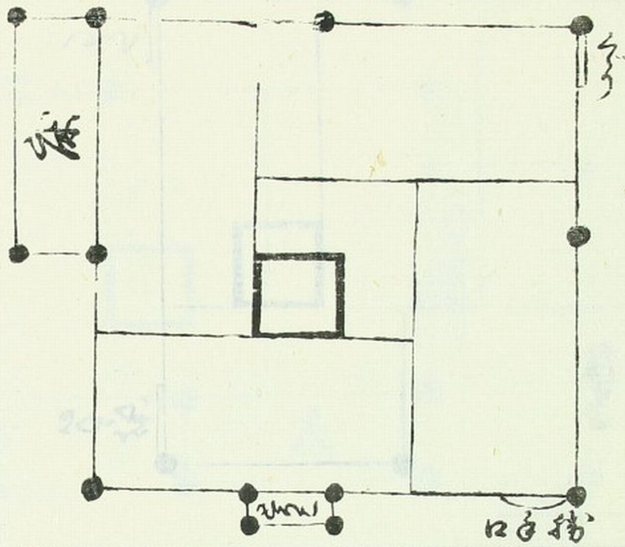


利休数寄の屋　三畳大目

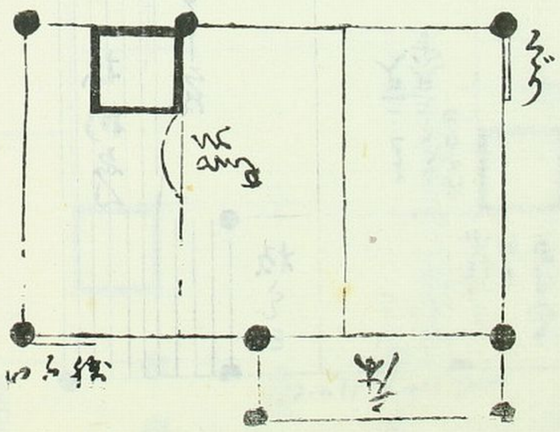


石安数寄の屋　平三畳

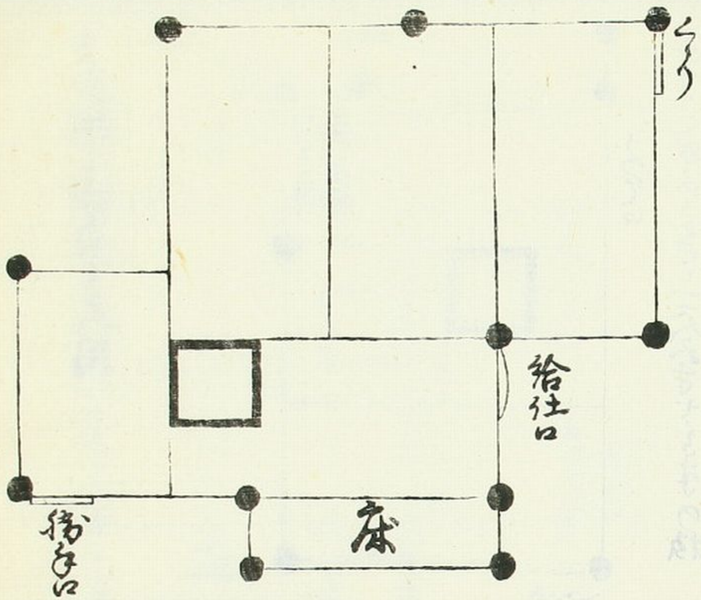
利休敷寿屋 写真本



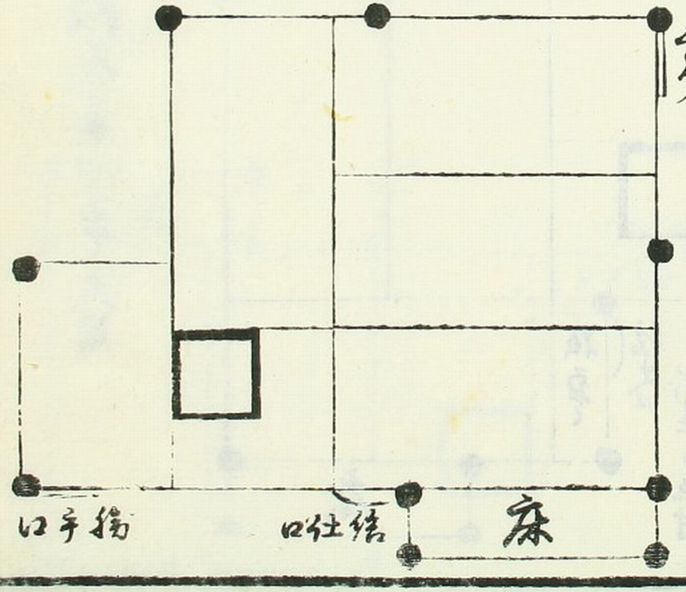
宗貞囲



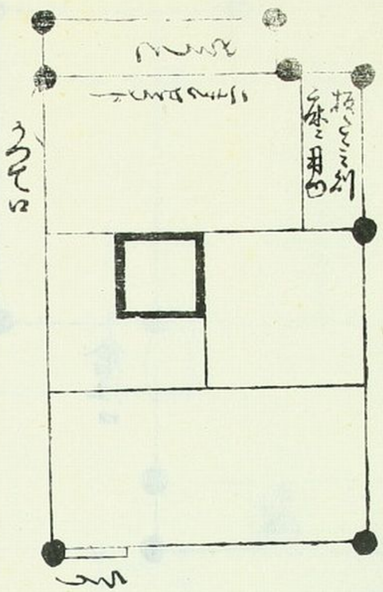
敷寿屋写真大目



同 写真本大目

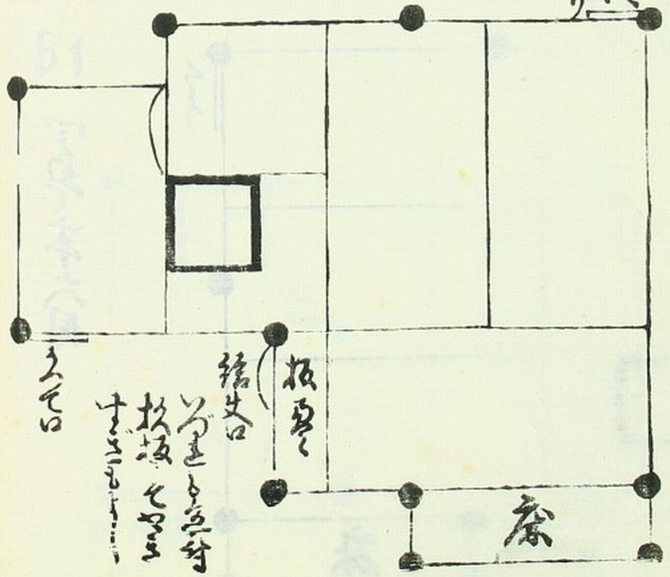


うとね 鉛筆大目

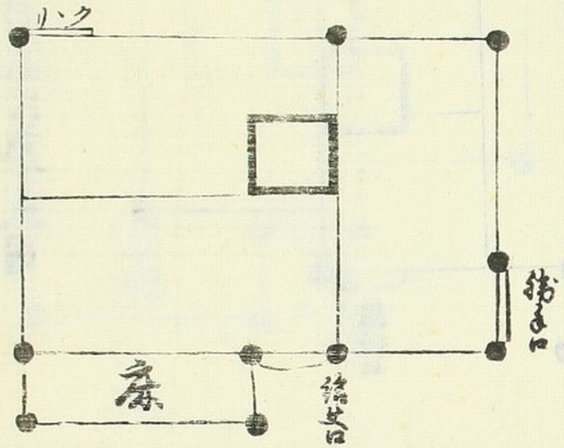


どうこ筆のさきこ一人ぶすせんすの板筆ニ中柱鉛筆人鉛すと上ニ横ニ行の横木あり板筆のさきのうへまて押筆してゐるなり志ましが右の横木の下ハつるす押筆してあらるなり

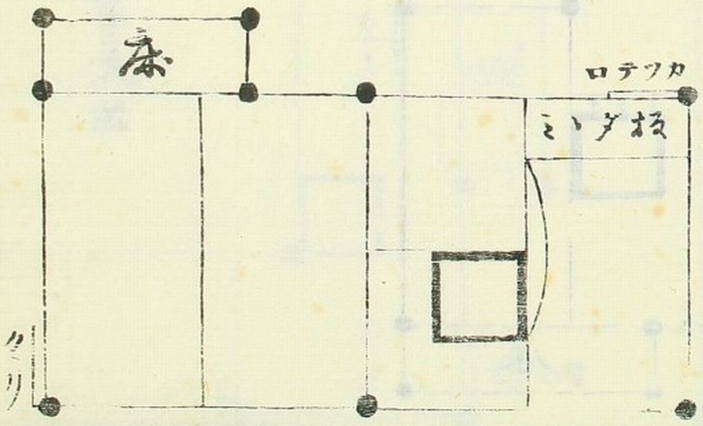
板書屋四筆大目



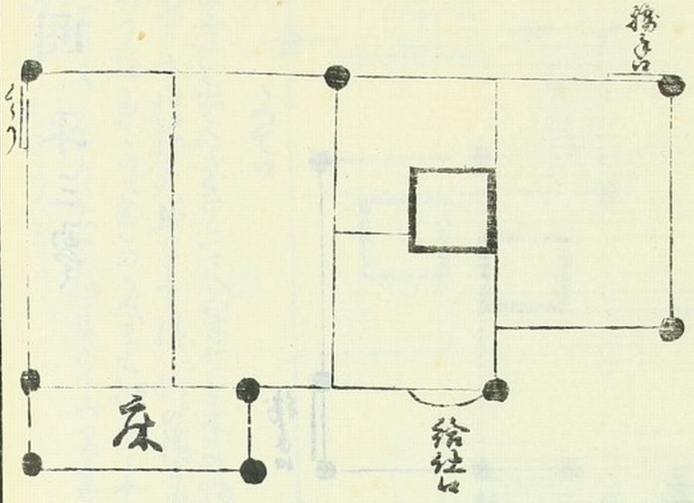
囲 平三筆



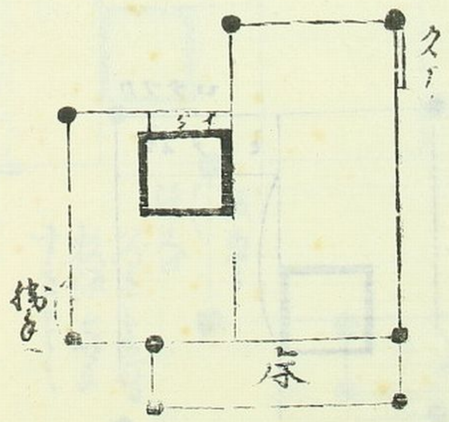
囲長四筆



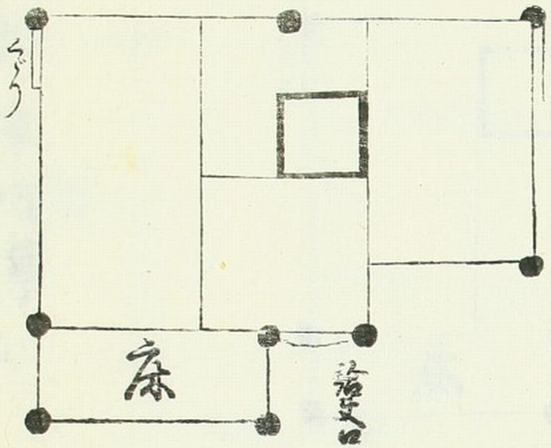
數壽屋三畳大目



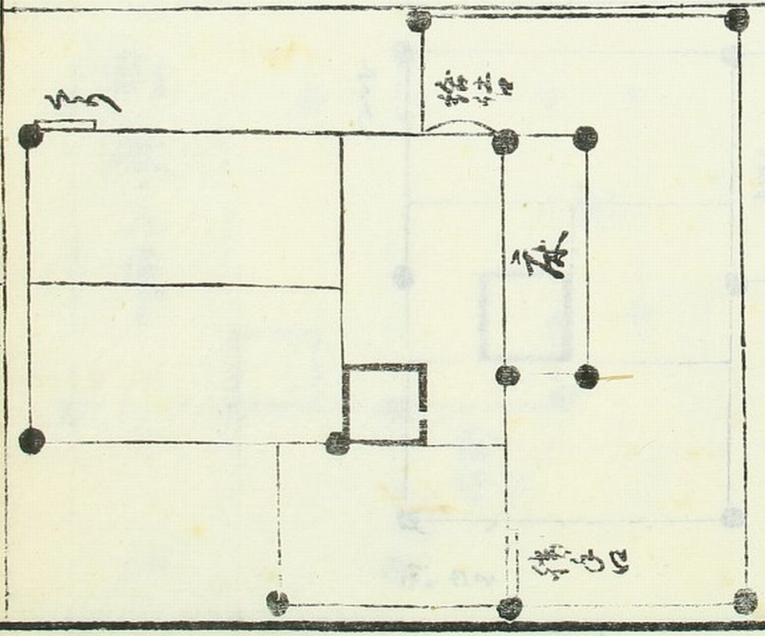
圓一畳大目

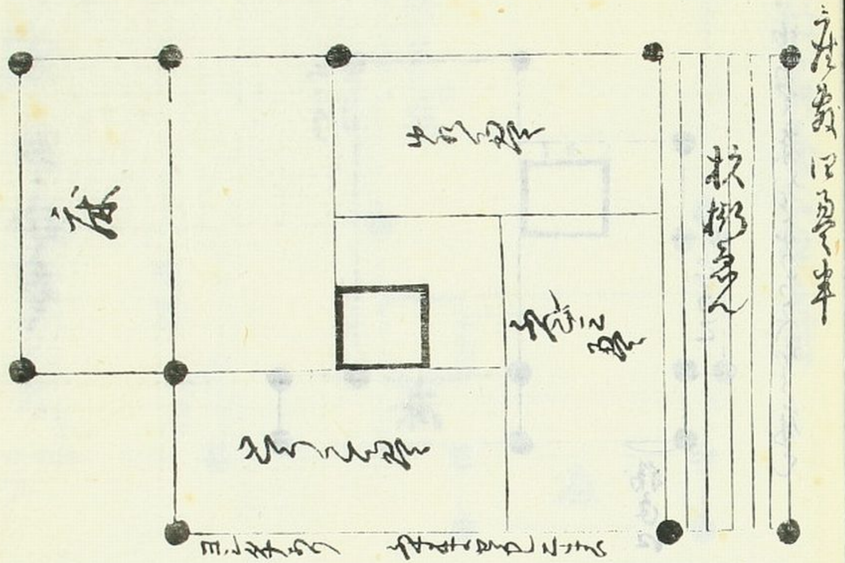


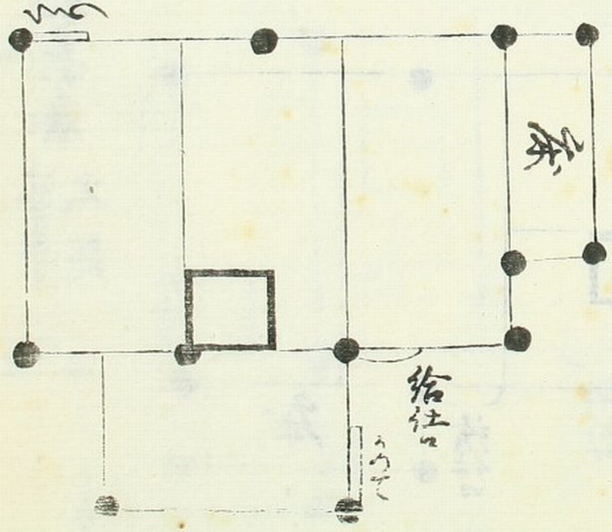
數壽屋卧畳大目

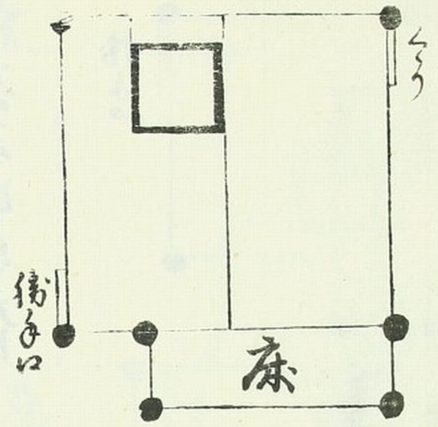


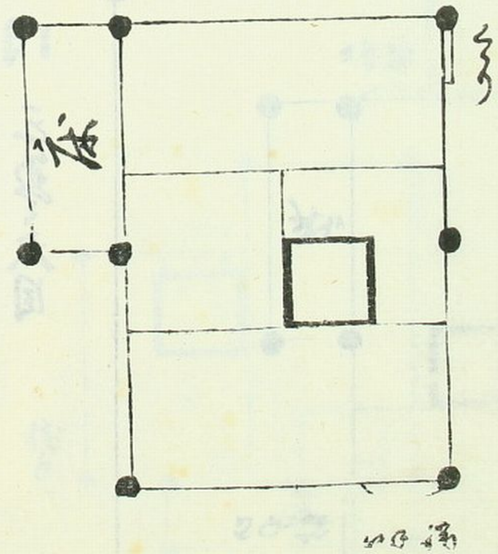
同三畳大目

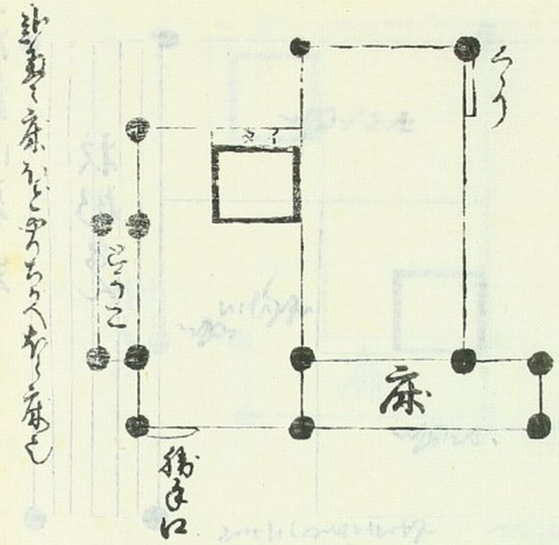



床
拭掛ふん

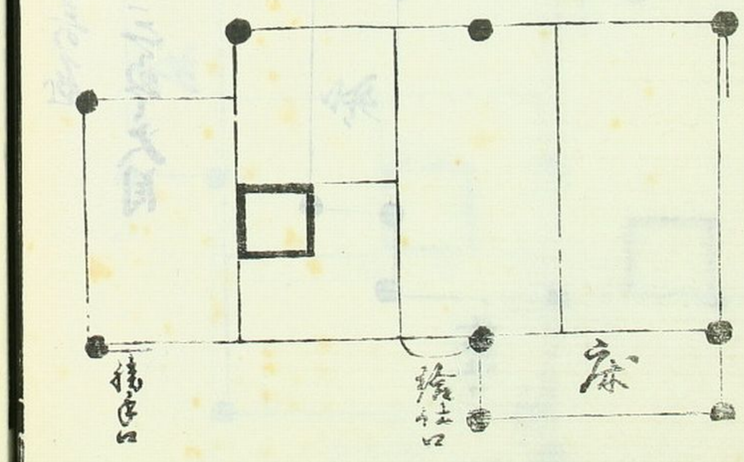

床
給仕口


床
縁手口

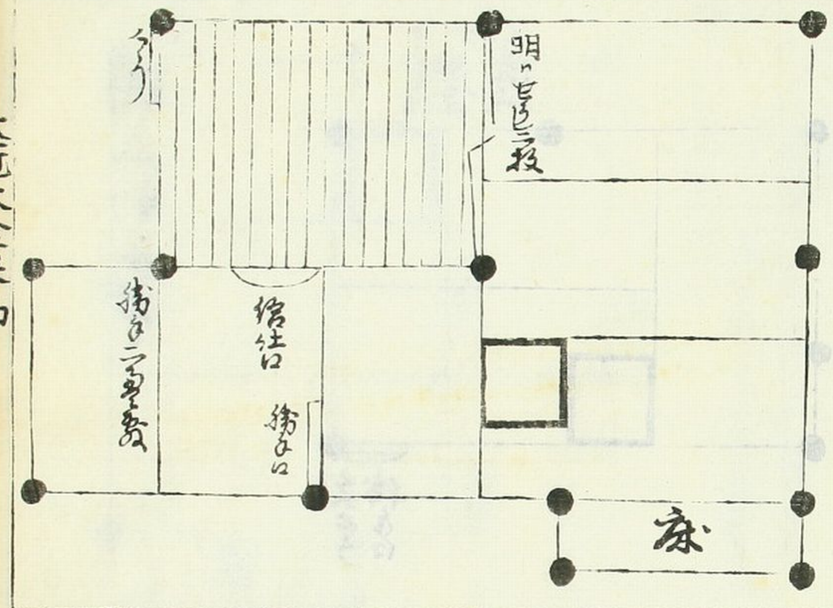

床



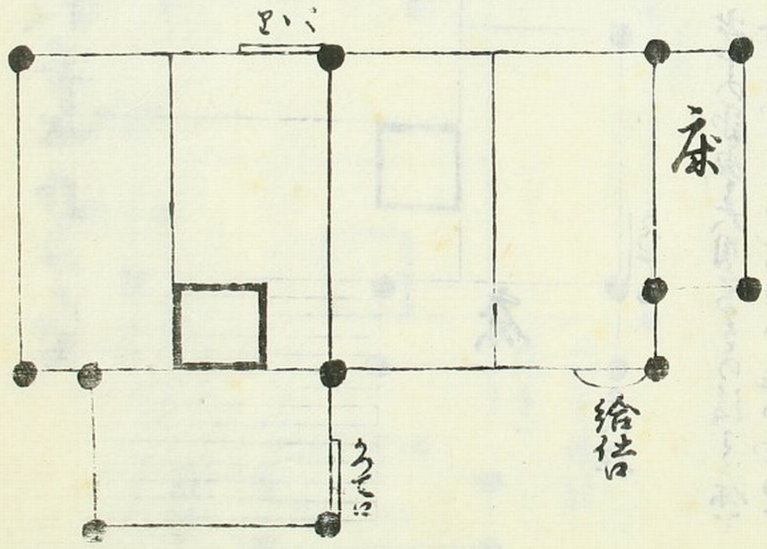
くり
床



くり
床

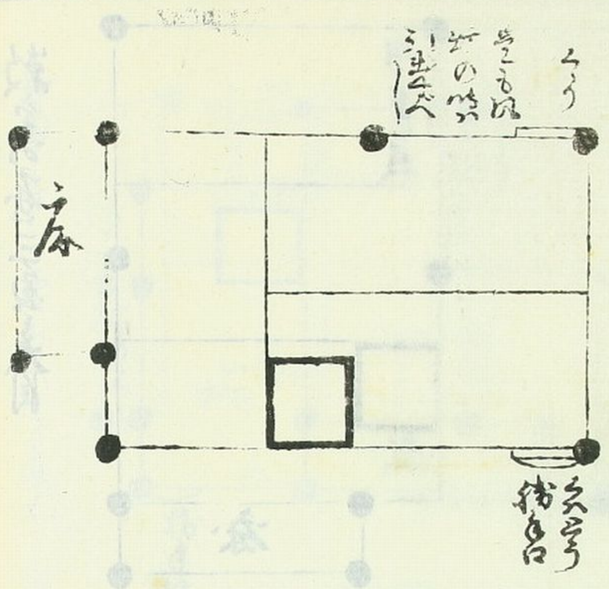


くり
明ハ七巳二枚
給仕口
床

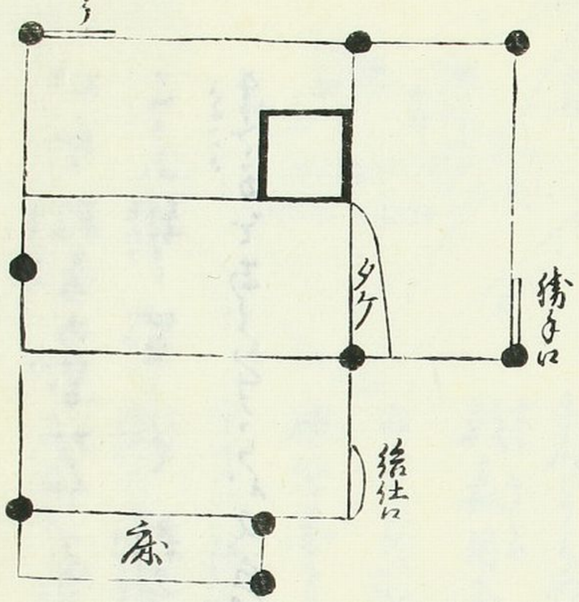


床
給仕口

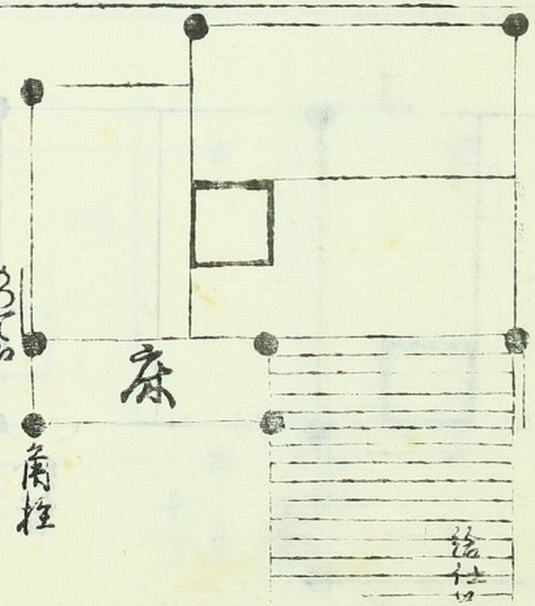
圖 ふかこ三畳



数寄屋 平口畳

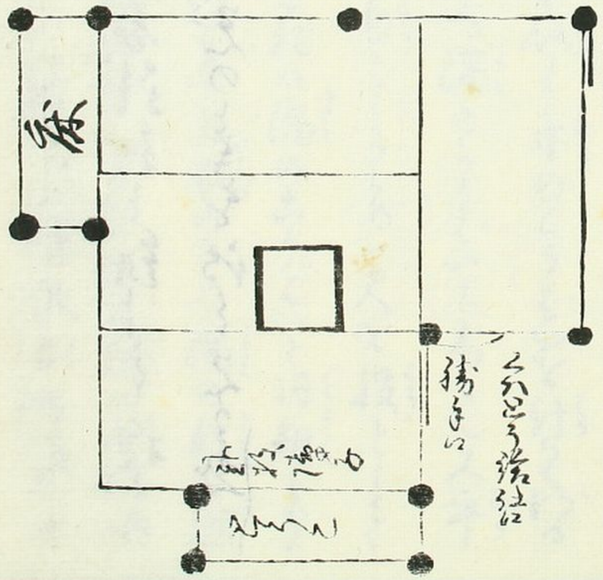


数寄屋 平口畳大図



常の平口畳大図なるまでの後に床を付枚々にしたんのあひとはあるを入るなり

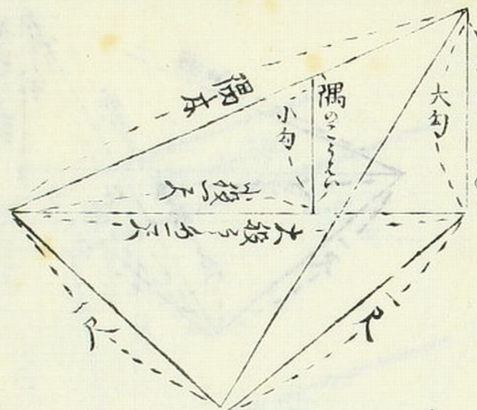
同



○此外數壽の器なかりすくしたるへども大同少異なれ
ことに聚して數壽を雖然に雖しく種々の
建方をあらかすこれ又殷兄のときを待てしかるべし

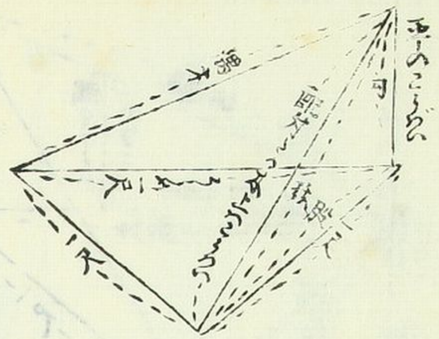
○諸の富配乃術

隅富配圖



平の富配を以て隅のこうばいを求むる術は
まづこうめを以て平のこうばいを計るものなる
數表目に入隅のこうばいとあるは又平
のこうばいを勾としこうめ一尺を股としこく
矩を置くされば隅のこうばいと同矩となる
なり○解にいはく上器のごとく隅の形を圖
畫こう股のこうちをこんりに大股は小股一
尺のこうめなり故に小勾のこうめは平の
こうばいと知るなり

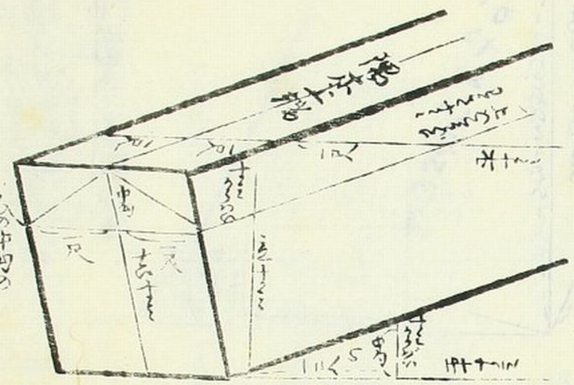
配付る木上ハ高配器



平のかゝるだいを以て配付壷木の上ハ高配を求むる術ハ先平のこうだいをもつて矩を置かき弦をもつて配付る木の上ハこうだいとす 但し弦ハ又己上なる四人半して用ゆべし

解まつたく上置のごとく隅の形をかきたるに配付るきのこうだいハ平のこうだいの弦又弦を一尺ならなる四点半して用ゆ

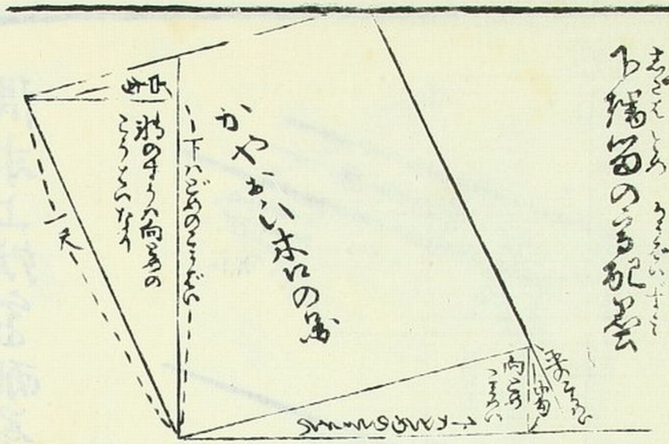
隅木上端高配器



隅の高配を以て隅木上ハのこうだいを求むる術ハ先すゝのこうだいを以て矩を置かき中句をもつて木上ハのこうだいとす又隅の高配を句とし弦を股として矩を置かしこれハ上ハこうだい器と同矩となるなり

解まつたく上の置のごとく隅のこうだいをもつて隅木を置かき 但し隅木上端を五尺とす

上端こうだい器をかけいろの矩をもつて同矩同数なり又ろの中句を隅木

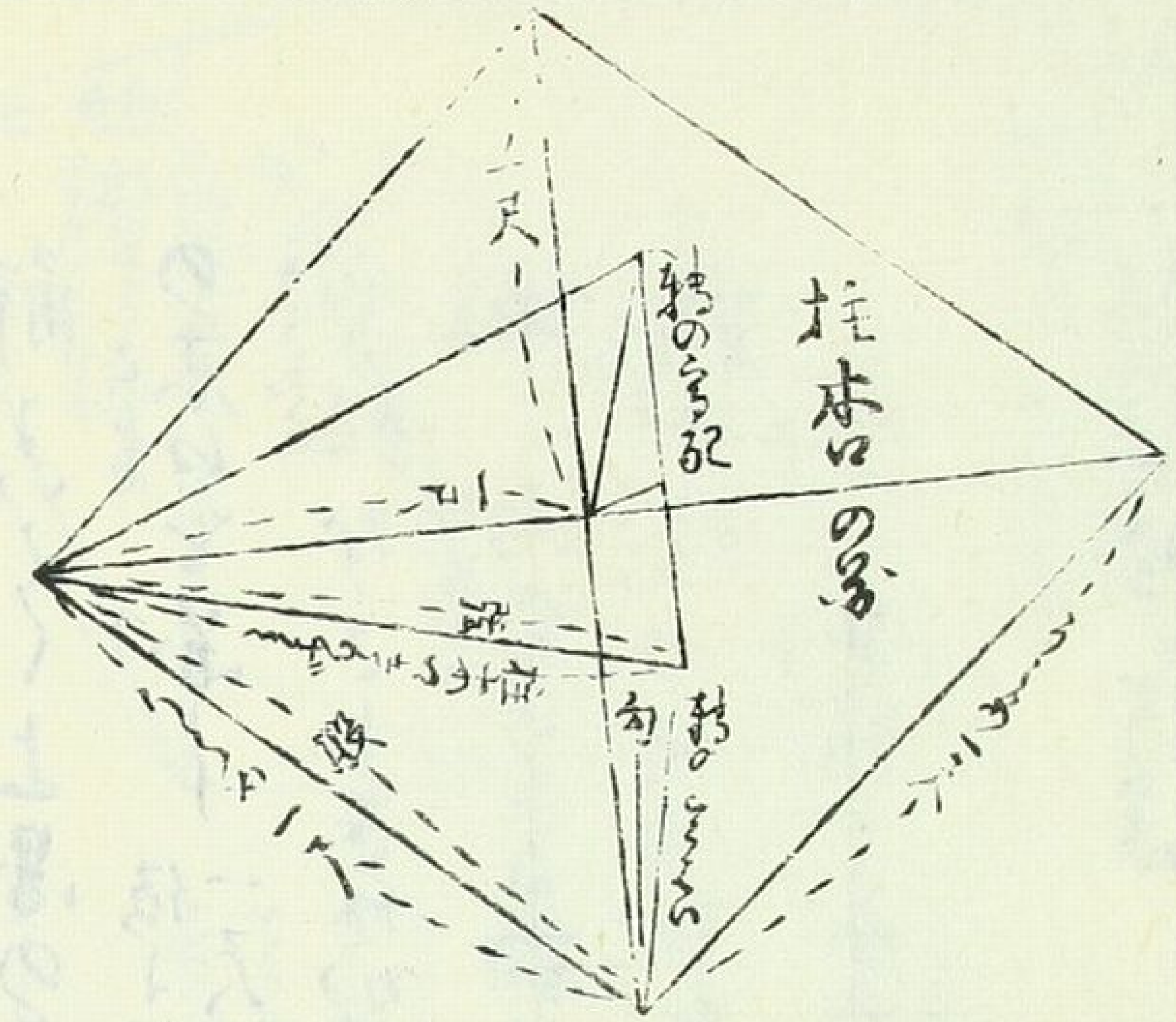


木負茅負隅向留
下端留の高配畳

の木口よりつんるときハ上端こうばいとなり
なり故に中匂をもつて上端からばいとなす
木負かやおひ平のこうばいをもつて隅向
どめの高配并下端どめの高配を求むる
術ハ先平のかうばいをもつて組を畳し
中匂をもつてひどめのかうばいとして
長法をもつて下ハどめの高配とおもふ
まて平の高ばいを匂とし法を役として
て組を畳するときハ向どめのかうばいと
同組となるとまた役一尺を匂とし

法を役として組を畳するときハ下ハ留の高ばいと
同組となるなり
解ていはく上畳のごとく平の高配となるひかやおひ
の木口を畳し 仮にかやおひ木口を一尺四方とす 手かたちをつんるに平の
高配なるときハかやおひの鞆もなくして平となり
係て向留の高配ハ上ハ立の高となるなり四えたり
鞆の鞆乃中匂をもつて向どめの高配とし其法を
もつて下端どめの高ばいとなすなり
四方鞆の桂根きり畳のうるばいを求る術ハ先鞆の
こうばいを裏目にてたるうえる鞆裏目にて桂根

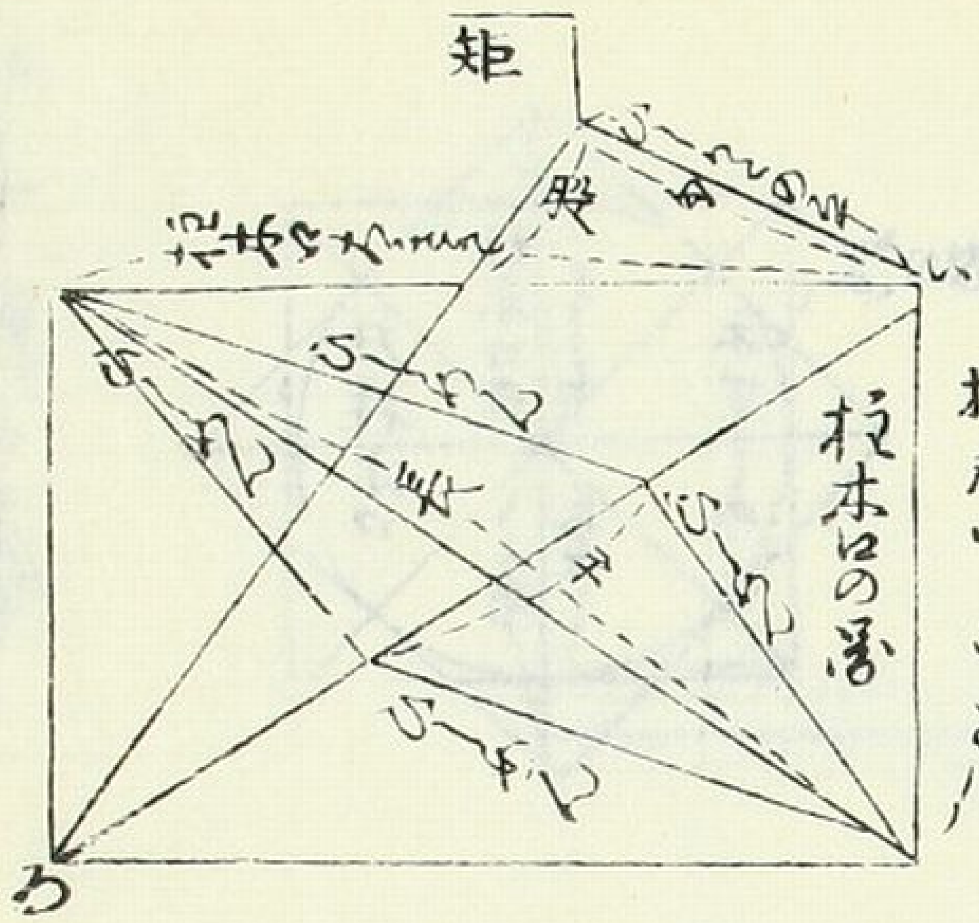
四方転の墨



木口きり墨の玄をもつて長く
転のかうばいを勾とし裏目一尺を
股として矩を当てつくところを切すその
あたりを目矩となる但しうらこうばい
より上のところはころびの勾配の裏
目をとりて柱根木口きり墨の
勾配となす
解はいづれも上墨のごとく柱の木口大きさ
を組ならべ一尺四方の墨かきる
木口の切墨を墨し切墨の勾配を
みるに転の勾配を合し出すものなり

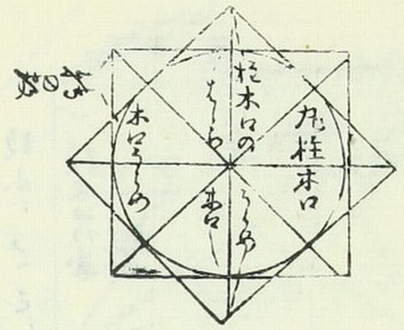
ころび一尺に股となる所に転の勾配を裏目にて計
て得る数裏目に入切墨の中勾となすなり

転の柱合様形割る墨



四方転ひらの木口様形の平
をもとむる術也これから上の墨のごとく
柱木口の大きさを墨しさて隅より
隅へ墨をかけ外の隅をおさへ
転のかうばいをもつて矩を当てかさ
勾を計てひらきの平とす又隅
より隅へかける墨を計て長とする
なり但し

八中精の畧



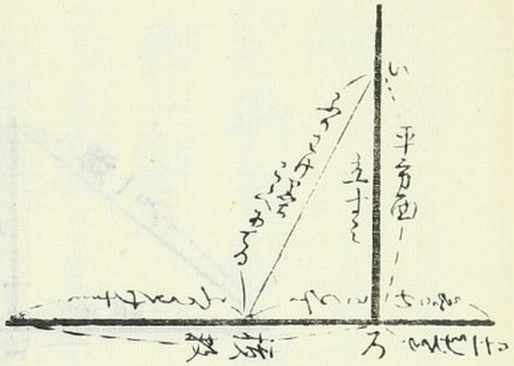
積を平方に畧く

解おとほし 但し柱をひしぎさまぐりしのら木口きりすこのうけぞうは有
柱をおしこ志べし

八中精の数を求むる術は中ぐ柱の木口数のうしめをまして柱木口数のうちより引さり條精の数に知るなり上畧解のごとく

無尺をもつて積を平方に畧く

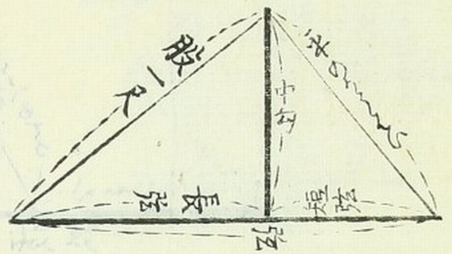
術は先積の数に定法一寸をうちへ上畧のごとく平方を引き積と定法



一寸の畧より立ずこを引さて平畧のうちのところより分の数をさて畧へあていろの畧をもつて平方面と志るし

解はいはく積数に定法一寸をかけたる者はいろの畧をかけ合せたる者とお同じ故にいろの数を以て平方面とす又定法を一の数に定むる理は積数変ぜざるさあし

平の高配を以て檐迴り各の高配を求むる墨



上図のとく平の高配を以て矩を畫がき檐迴り各の高配を求むる例はまづ

一 うしめを以て平のこうばいを計量する數表目に人偶の高ばいを志るし

一 弦を以て配付こ家氣の上ばい高配と志る

一 うしめを以て中勾を計量する數表目に人偶木上端高ばいと志るし

一 中勾を以てかやおひ向留の高配とし弦を以て下端留の高配と志るし

一 平高ばいのうしめを以て偶木根配に

寫す事頁へむかひどめの高配と志るし

解おる詳なり

○平高配の數を設けて檐迴り各高配を考る

平高配 四寸

偶高配 二寸八分 卦重八毛 余

配付 家木上端高配 一尺〇七分七厘〇余

偶木上端高配 二寸六分 卦重六毛 余

丸桁へ偶木落掛高配 卦寸

茅負向留高配 三寸七分一厘 四毛 余

日下端留高配 九寸二分八厘 五毛 余

偶木の照つ寫に茅負向留高配 五寸六分 五厘六毛 余

○建物小畫の術

一 建物終廣の節小畫の術はまづ小畫盤を以て水を畫り平準の繩を張り各柱へ印し 紙幾印なりは入面形柱をうらはしへも幾印を分かく諸分のみあひをとくと考へ上も押あらひは基輪飛雲柳の筆を時宜ふり上の押とし下は平準の幾印をおさへ押へのさしらを定め 紙名宮なき場所はさしつけ定木を造りこと をうつく柱をうふさしつけの墨を出し 紙かし印 宮組を出すべきて地形の平なるず又は入りがたき柱の根さづき筆を改め平準になるべし古基石口を引き居りたる又地形四個に括別の高さあるときは平準にかくならば古基を居へ柱の根さづきしもいたす 紙別古基附ち高さ柱を居て物分 入面形 柱幾

出すしより平準繩をとり柱をとふ平準繩とも古基上端のさしつけ定木を造り 紙平準の繩を引ひばしく柱石上にしまでの根定木を物分いてこゝろ計数造りおきて 紙をとり柱の星を印へおきて平準下の長短をとり柱根縫數盤いたすべし

紙 古土基なぞをり柱ひあり又は物分為りて寫濕雜いて古基平に居てきてあり縮くこゝふ出す

出合場所にあひ柱小畫いたしあり付実合金を入るし

とのく柱場ちがひのこと田忠とさしおりをさへの柱通くのこと

あり縮くあり付実合出合がうきて多しね直す合

けること好要なり 紙各うの合のうへをさへの柱ゆらく

一 大ひかるに建物あげるといし請おさ柱根つぎ數盤出来

のくへ踏せるといふすときは先きゆうぐらの厚さを掛へきなら
どふ付がたゆ蔵附ふる處にて板根のうるトをつくらびしたべ
ことに踏せるこすべし

一木匠三四丈の組を用ゆるとあり三四丈の組のこうそは弁
なるとあり依てこゝに勾股弦ふ畫なき數を畢べ

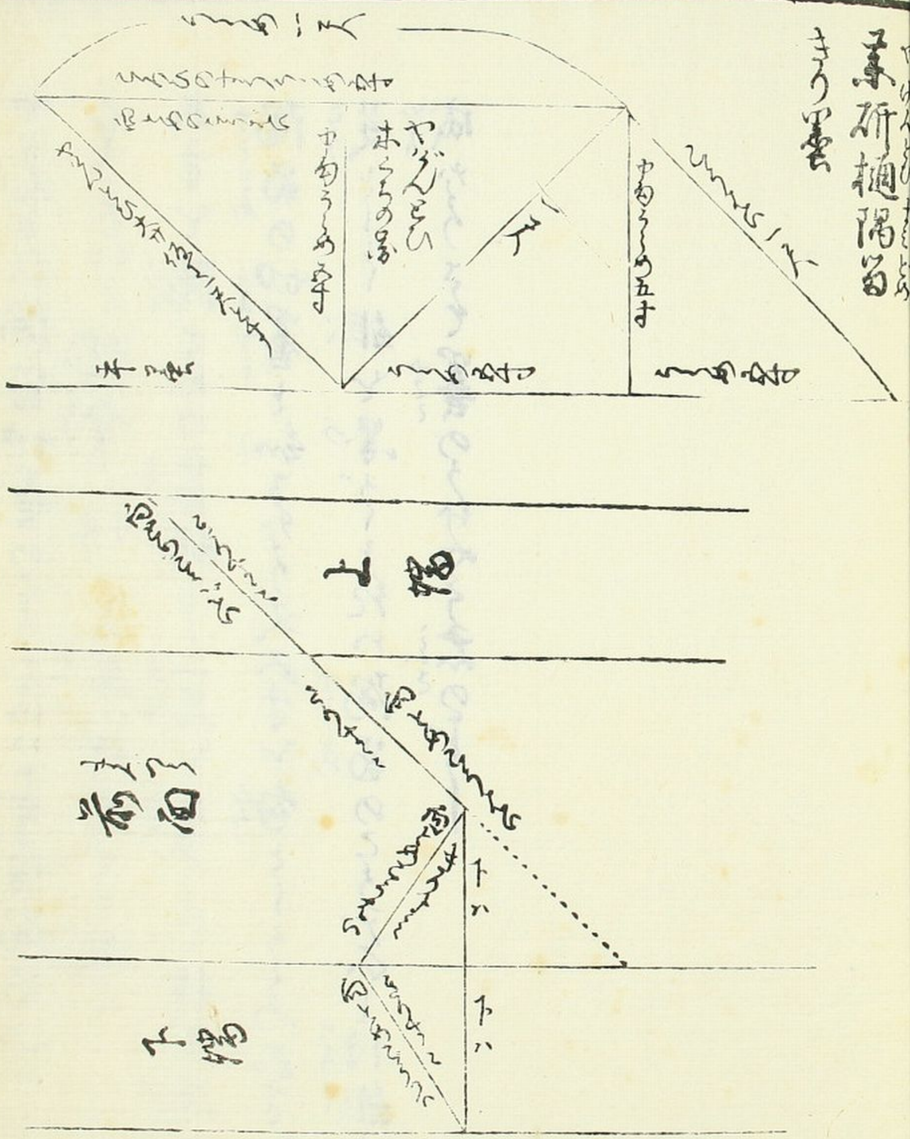
鉤級	股級	弦級
三寸	四寸	五寸
五寸	一十二寸	一十三寸
八寸	一十五寸	一十七寸
七寸	二十四寸	二十五寸
二十〇寸	二十一寸	二十九寸
一十二寸	三十五寸	三十七寸
九寸	四十〇寸	四十一寸
二十八寸	四十九寸	五十三寸
一十一寸	六十〇寸	六十一寸
一十六寸	六十二寸	六十七寸

餘略之

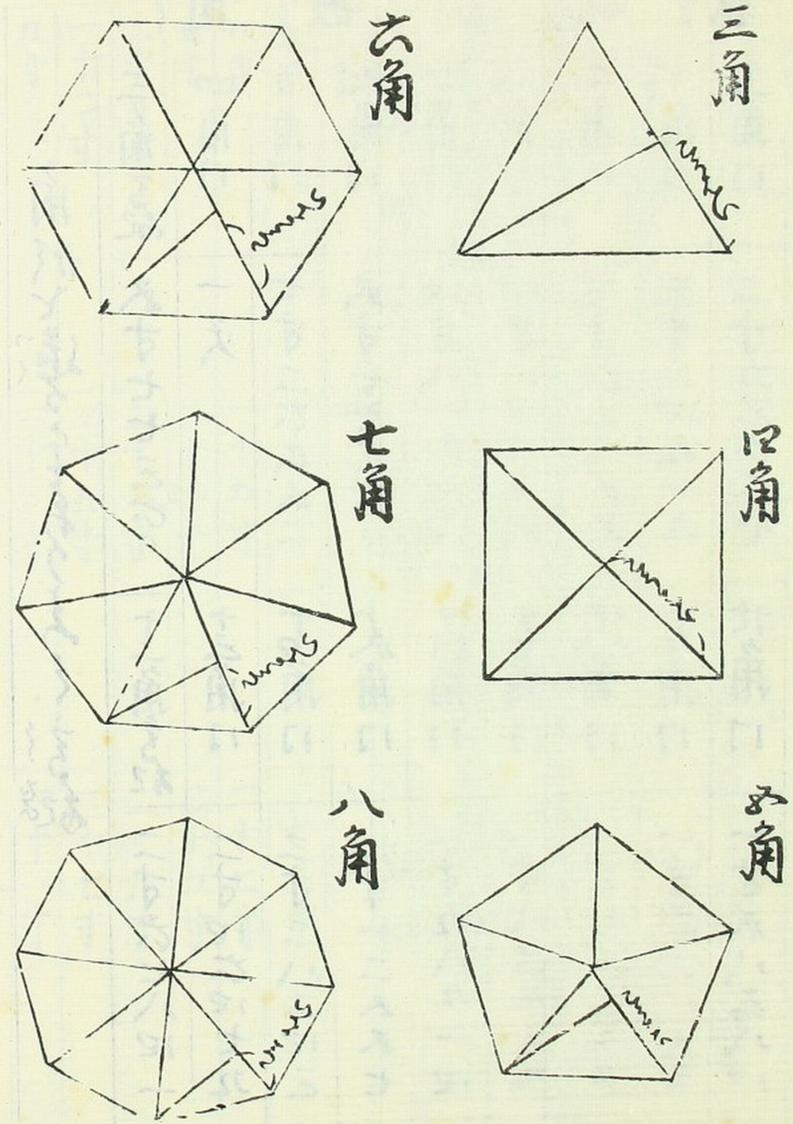
○角形を造ることありよつて高配

角形	高配	表
三角高配	又寸七七三六〇	十一角高配 二寸六七八四一
四角円	一尺	十三角円 二寸四六四七九
五角円	七寸二六又又二	十四角円 二寸二八二四三
六角円	又寸七七三六〇	十五角円 二寸一二又又七
七角円	四寸八一又七四	十六角円 一寸九八九一四
八角円	四寸一四二一又	十七角円 一寸八六九二二
九角円	三寸六三九又九	十八角円 一寸七六三二六
十角円	三寸二四九一九	十九角円 一寸六六八二七
十一角円	二寸九三六二七	廿角円 一寸又八三八四

餘略之



ヤゲんとひ
ホらちの場
中ゐうしめ五寸
中ゐうしめ五寸
上階
下階



三角
六角
四角
七角
五角
八角

やぶんとひ隅留切墨のこうだいは矛頁隅留切ずミの
こうだいと理合くはし上黒解のごとし依てこうしゆ
ますを隅どめの高配とし一天を殳として矩を黒ず
隅留の切墨と知るなり又ますを勾としうゆますを
殳としく矩を黒ずくとれは隅留のこうだいと同矩と
成なりさて墨のうけやう右のごとし